

教
育

第 **112** 号

定期総会・教育講演会
部会・委員会だより
各支部・各学校より
教育随想





三河教育研究会会長 山田 光夫

生きる力を育む教育の創造

◆本年度の課題

そこで、三河教育研究会では、本年度三つの課題を掲げ、取り組んでまいります。一つ目は、会員の指導力の向上であり、とりわけ中堅・若手教員の指導力の向上に努めます。そのため、昨年度の研修会・研究会の成果と課題をもとにそのあり方に改善を加えるとともに、中堅・若手教員のニーズにできるだけ応え、指導力を高める研修会を実施していきます。

二つ目は、「授業力養成講座」の充実です。これまでの四年間は、後期に小学校の授業研究会を実施してきましたが、本年度からは中学校においても実施する予定です。

三つ目は、副教材の充実と編集です。現行の教材の活用における現場での声を収集し、子どもたちにとってより価値のある自主教材の編集に努めていきます。

◆おわりに

私が尊敬する今は亡き東井義雄先生は、現役の頃にこんな言葉を残しておられます。「教育とは、子どもが自分の二本脚でこれからの厳しい世の中を歩き抜いてくることができるように、その力をつけてやることである」と。今の時代で言えば、まさに「生きる力の育成」です。会員一・九九四名が心を一つにして、目の前の子どもの生きる力を育むとともに、三河教育研究会のさらなる進化・発展に努めてまいります。会員の皆様の一層のご支援とご協力を切に願います。

してきました。このような営々とした教育の営みが続いてきたところに、「教育は三河から」とよばれる三河教育研究会のすばらしさがあるといえます。

◆三河の教育の創造

さて、豊田市の「小原和紙」は、江戸時代に農家の副業として、「豊橋筆」は、吉田藩の藩士の副業として広まり、その後、職人たちが製法技術を高めたり改良を加えたりして、今では全国に知られる工芸品となっています。三河では、この他にも蒲郡の「三河木綿」、岡崎の「石工品」、高浜の「鬼瓦」をはじめ数々の優れた工芸品を生み出しています。三河のものづくりのすばらしさは、職人が力に

合わせ、三河の素材や三河の風土を巧みに生かし、知恵と汗を出し合い、創意と工夫をこらし、一途に良いものを探究し続けてきたところにあるといわれています。こうした職人のものづくりから見えてくる創造力、粘り強さ、結束力は、私

やわらかな緑と海の青さが目にしみる蒲郡の地にて、愛知県教育委員会委員長職務代理者岩月慎自様、蒲郡市副市長鈴木良一様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席のもと、平成二十六年三河教育研究会総会・教育講演会を盛会裏に終えることができました。心より感謝申し上げます。

◆教育は三河から

三河教育研究会は、昭和三十六年に、「三河のすべての子どもたちに、三河の教師たちによる優れた教育を保障したい」という先人たちの熱い願いのもとに創設され、以来、五十三年を数えます。この間、時代や地域の教育課題に正面から向き合い、常に子どもたちのために英知を結集する三河教育研究会をめざし、数々の実践と成果を積み上げてきました。具体的には、子ども一人一人の成長を促すために、より優れた教材、より優れた指導方法を探究し、質の高い授業を実践

平成二十六年年度

三河教育研究会役員

会長 豊田 美里中 山田 光夫
副会長 刈谷 福江中 磯谷 伸之

顧問 豊橋 花田小 安城 水野達彦
会計監査 豊橋 野依小 戸田 守彦

幹事 豊田 東部中 鳥居 弘一
西尾 西尾小 稲垣 敬一
豊川 東部中 高本 訓久

庶務 愛教大 附屬岡崎小 伊豫田 守久
愛教大 附屬岡崎中 水藤 彰啓
愛教大 附屬特別支援 宇野 成佳
愛教大 附屬岡崎中 塩野谷 文雄

会計 豊川 音羽中 鈴村 富士子
碧南 西端小 岩井 伸江
愛教大 附屬岡崎小 横地 喜之

◆評議員 (部会長)

国語 豊田 拳母小 中島 敬康
社会 西尾 鶴城中 木下 祥一
算数 新城 作手小 小西 利之
理科 岡崎 甲山中 小嶋 利之

◆常任委員

知立 知立小 村瀬 俊一
高浜 高浜小 鳥居 優子
みよし 中 江口 修
幸田 坂崎小 山田 富久

総務委員会 委員 刈谷 小高原小 磯谷 伸之
副委員長 愛教大 附屬岡崎小 伊豫田 守彦
委員 安城 桜林小 川角 正彦

(各種研究委員会委員長)

広報委員会

委員長 安城 安城南中 水野 達彦
副委員長 愛教大 附屬特別支援 宇野 成佳

委員

岡崎 新香山中 小伊藤 孝明
幸田 坂崎小 加納 達朗
愛教大 附屬特別支援 波田 章博

(支部長)

調査委員会

委員長 豊田 福江中 小川 悟
副委員長 豊田 堤小 竹本 正子

委員

豊田 新盛小 津坂 彰啓
豊橋 岩田小 河合 敏博
刈谷 刈谷南中 山田 利恵子

豊橋 磯辺小 中島 一吉
豊川 金屋中 中野 茂久
蒲郡 西浦小 丸山 幸博
新城 東陽小 加藤 由美子
北設 神戸小 山下 芳宏
岡崎 葵中 石田 雄吉
碧南 中央小 内田 義和
刈谷 雁が音中 大橋 秀彦
豊田 末野原中 川合 金一
安城 三河安城小 土屋 玲子
西尾 三和 富田 幹代

平成二十六年 度

定期総会・教育講演会【報告】

五月二十一日（水）蒲郡市民会館

五月二十一日（水）蒲郡市民会館において、平成二十六年 度三河教育研究会定期総会・教育講演会が、約千名の会員と多くの来賓の先生方のご臨席を得て、盛大に行われました。

定期総会では、はじめに三河教育研究会の活性化及び組織拡充と女性の登用を積極的に進めるために、副会長を三名から四名に増員する会則の改正が承認されました。その後、本年度の役員が承認され、山田光夫会長を中心とした新体制が発足しました。山田会長は、就任のあいさつのなかで、江戸時代より受け継がれている小原和紙で作られた卒業証書と豊橋筆の実物を提示しながら、良いものを一途に探究し続けた職人の創造力や粘り強さ、結束力は、子どもを中心に据えた教育を推進している三河の教師としてのあるべき姿と相通じるものがあると述べました。そして、子どもの生きる力を育むために、「会員の指導力向上」「授業力養成講座のさらなる充実」「副教材の充実と編集」を取り組むべき課題として提示しました。

さらに、東井義雄氏の「教育とは、子どもが自分の二本脚でこれからの厳しい世の中を歩き抜いてくれることができるように、その力をつけてやることである」

ということばを引用し、三河の教師が心を一つにして教育活動に邁進しようと呼びました。

就任あいさつに続いて、ご臨席の来賓を代表して愛知県教育委員会委員長職務代理者の岩月慎自様、蒲郡市副市長の鈴木良一様よりご祝辞をいただきました。

岩月様からは、子どもや保護者の信頼に応え続けるためにもすべての教師が学習指導や生徒指導などの専門職としての力量とともに、教師の基盤となる総合的な人間力を向上させることが何よりも重要とお話をいただきました。

鈴木様からは、三河教育研究会は、教育に対するひたむきな情熱と常に先を見通した先駆的な研究活動を行っているため、三河教育をリードする存在であるとおことばをいただきました。

その後、三河教育研究会の活動にご尽力いただきました前会長の河合伸樹先生、前副会長の太田日出夫先生に、山田会長より感謝状を贈呈いたしました。

それに続き、平成二十五年 度の事業報告・決算報告、平成二十六年 度の事業計画案・予算案については、全ての議案が賛成多数で可決されました。

当日は、多くの皆様のご協力により、盛会裏に終えることができました。

教育講演会

演題「いまどきの子ども、いまどきの大人」

講師
音楽家

タケカワユキヒデ氏

東京外国語大学在学中にゴダイゴを結成され、ガンダーラがヒットし忙しくなった年にご長男が、その後すぐにご長女が誕生し、そして養女をもらわれました。

ご長男が二歳くらいの時に奥様からのお願いで、養護施設にいた春子さんを養女にされました。養護施設の運営が厳しくなり、春子さんの身寄りがなくなるからというのが理由でした。

養女になった春子さんは、すぐに進路を考えないといけない状況でした。春子さんは看護師になることを希望しており、その夢は高校に行かないと実現が難しかったのですが、なかなか上手くコミュニケーションが取れず、進路について相談にのれずにいました。

しかし、進路についてやっとのことでコミュニケーションが取れ、本人の口から蚊が鳴くような声でしたが、「行きたい」という返事が聞かれました。この時のことをタケカワ氏は涙がでそうだった……と振り返られました。



施設で育った彼女が一度も不良にならなかったのは、その高校の先生たちが本当に一生懸命補講をしてくれたからで、また春子さん本人が生まれ変わって今までの分を取り返そうと思ったからにほかならないとお話しされました。

タケカワ夫妻は小さな子どもたちの子育てと、それから高校生をもつ親を一度

に体験するという珍しい経験をされたのでした。

そのあとに、さらに、二人、女の子が生まれ一男五女の親になりました。

最初の子が小学校に上がる時のお話ですが、その子が、「勉強はつまらない」と近所の小学生に話しているのを聞いた時、タケカワ氏は勉強は最初につまずくと取り返しにくくなるのでまずいと感じられました。

「勉強は面白い」というタケカワ氏の言葉をその子は「勉強は遊びだ」と解釈し、学校でもいろいろと困らせる存在だったそうです。今から考えると、おそらく学習障害だったと……その子も現在は、大学院を出て立派に法律の勉強をされています。

もう一人の子は、ディスレクシア（文字障害）ということが後々わかったそうですが、学校で漢字の書き取りをやらされていたそうです。せめて、僕たち親に相談してくれたらと、悔やまれたそうです。「世の中にはたくさんそういう子どもたちが存在するので、そういう子どもたちにもどう接したらいいのかという研究も進んでいると思います。そのへんを頑張っていたら嬉しいなと思います。」とタケカワ氏からメッセージをいただきました。

親子でも、友達同士でも、先生と生徒でも相手が大事にしていることがお互いにわからないともめることが多い。まずはお互いが相手を大切に思っていること

や常識は簡単にはわかり合えない、ということを確認するところから、出発すべきだということをタケカワ氏は子どもたちから学ばれました。

また、タイのラフ族の集落で通訳の方から聞いた衝撃の事実から、先程の話に確信をもたれました。

ラフ族の通訳の男性は十二歳で結婚、お相手は十一歳と聞き、タケカワ氏は正直「これでいいのか？」と思われたそうです。しかし、その集落では誰もおかしいとは思っていない。その時、自分の常識で他の民族の常識を批判しようとしていたことに気づかれます。

「自分の常識だけで物事を判断してはいけない。そして、自分の常識を人に押し



し付けない」という考え方が当たり前になれば悲しい事件も減り、人間関係も改善され、平和に繋がると最後にメッセージをいただきました。

本日タケカワ氏は、私たちに親として一男五女を育てながら、数々の失敗、その度の反省、そして何より数えきれないほどの感動を体験されてきたお話をしてくださいました。

親と子、人と人をつなぐもの

豊田・美里中 青木 宏羽

タケカワ氏のお話を聞いて、親としての子どもとの距離、心のもちように感銘を受けました。

また、養女の気持ちを受けとめ、少しずつ互いに理解していくお話に、親子の距離の大切さと子どもへの気持ちを受けとめる親としての優しさを感じました。タケカワ氏は、日頃の生活のなかで、子どものちょっとした姿に感動し、いっしょに感動を味わうことも大切に行っているとおっしゃっていました。そのようなタケカワ氏の子どもの気持ちを常に親身に受けとめながら、温かい眼差しではたらきかけている姿に、家族の絆のあり方を考えさせられました。家族の絆だけでなく、子どもの姿に感動することは、教師としても大切にしていくべきことだと思いました。

タケカワユキヒデ氏

プロフィール



一九五二年生まれ。音大教授の父を持ち、五歳からバイオリン、十歳から作曲を始める。

一九七五年東京外国語大学在学中にソロアーティストとしてデビュー。翌七六年にゴダイゴ結成。作曲とボーカルを担当し「ガンダーラ」「モンキーマジック」「銀河鉄道999」「ビューティフルネーム」などの数多くのヒット曲を生む。

現在は音楽活動の他、エッセイなどの執筆活動、テレビ・ラジオ番組への出演や公演・コンサート活動と幅広く活動中。

一男五女の父親としても知られ、一九九九年度のベストファザー賞を受賞、子育ての講演も多い。著書に『娘を持つ父親のための本』、また最新著書に『ビューティフルネームの本』がある。

平成二十六年 本部事業

生きる力を育成する三河教育

指導力を高め続ける教員として

総務委員会

国語部会夏季研修会	8/4	豊川
国語書写部会書写実技講習会	7/25	岡崎
社会部会夏季研修会	8/8	岡崎
愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会	8/6	西尾
理科部会夏季研修会	8/6	豊川
生活科部会夏季研修会	8/8	豊川
愛知県小中学校音楽教育研究大会	10/1	豊田
愛知県造形教育研究会総会	11/4	豊橋
愛知県造形教育研究協議会	8/6	安城
保健体育部会夏季研修会	10/17	西尾
東海北陸地区小学校家庭科教育研究大会(小学校部会)	11/5	知立
愛知県中学校技術・家庭科研究大会(中学校部会)	11/5	知立
英語(外国語)部会夏季研修会	8/5	豊川
愛知県道徳教育研究大会	10/28	豊橋
愛知県小中学校特別活動研究大会	8/1	西尾
特別支援教育部会夏季研修会	8/8	田原
愛知県養護教育研究大会	7/30	名古屋
総合的な学習部会夏季研修会	8/5	岡崎
愛知県生徒指導研究大会	11/12	江南
愛知県学校図書館研究大会	8/22	半田
ICT活用研究会	8/6	豊橋
愛知県統計教育研究発表会・講演会	11/25	未定
愛知県へき地教育研究大会	10/28	設楽
授業力養成講座Ⅰ(夏期)	8/20	新城
授業力養成講座Ⅱ(秋・冬期)	8/22	知立
	11/18	蒲郡
	12/3	知立
	12/5	蒲郡

www.sankyoken.aichi-edu.ac.jp

部会・委員会だより

技術・家庭

本年度、技術・家庭部会では、中学校部会、小学校部会ともに研究大会を開催いたします。中学校部会では、本年度より新テーマを掲げ、平成二十八年度に行われる東海北陸愛知大会に向けて、尾張地区、名古屋地区とともに研究を行ってまいります。当日は、技術分野は生物育成領域、家庭分野は食生活領域の公開授業を行います。

◆平成二十六年愛知県中学校技術・家庭科研究大会知立大会

○研究主題

「よりよい生活に向けて、

最適解を求め続ける生徒の育成」

― 考えの広がりや深まりを大切にしたい ―

問題解決的な授業を通して―

○期 日 平成二十六年十一月五日(水)

○会 場 知立市立知立南中学校

○日 程 十二時三十分～十六時十五分

○助言者 愛教大 太田 弘一 先生

愛教大 伊深 祥子 先生

○講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 上野 耕史 様

小学校部会では、これまでの愛知県家庭科教育研究大会に兼ねて初めての東海北陸大会が行われます。当日は、衣服と住まいの領域での公開授業を行います。

◆第一回東海北陸地区

小学校家庭科教育研究会愛知大会

兼 平成二十六年

愛知県家庭科教育研究会西尾大会

○研究主題

「未来を創り出す豊かな心と

確かな実践力を育む家庭科教育」

― できる喜びを味わい、

生活に生かすことのできる子の育成 ―

― ユニバーサルデザインを取り入れた

家庭科の指導の工夫 ―

○期 日 平成二十六年十月十七日(金)

○会 場 西尾市立横須賀小学校

○日 程 十二時三十分～十六時三十分

○助言者 愛教大 青木 香保里 先生

○講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 筒井 恭子 様

詳しいご案内及び参加申し込みを各学校に送付させていただきます。多くの先生方のご参加をお願いいたします。

研究大会知立大会にご参加ください

幸田・南部中 佐々木 洋一

中学校部会のこれまでの研究において、生活との関連を深めた「アクション」を設定することで、学んだ知識や技術を生活の中で活用する力を高めることができました。本研究では、学校で学んだことと条件や内容が変わった問題にもこれまで学んだ知識や技術を活用し、最適解を求め続けるようとする生徒の育成をめざしています。多くの先生方が授業づくりについて考える場になることを願っています。

学習情報

ネットワーク社会における

豊かな学びとメディア

私たちは、「ネットワーク社会における豊かな学びとメディア」をテーマに研究を進めてきました。

より良い自作教材の作り方を研究し、学習指導の充実を図り、三河地区における学習情報教育の推進に寄与するために、毎年夏休みに「自作視聴覚教材研究会」を行ってきました。ここでは、各地区で自主制作した映像教材やパソコン教材の発表を行い、意見交換を通して、自作教材制作の意義やより良い教材作りの方向を共有するなど、多くの成果を挙げてきました。しかし、教育の情報化が進むにつれ、「情報モラルの育成」や「ICTを活用した授業実践」など、新たな課題も見えてきました。そこで、平成二十六年から、今までの「自作視聴覚教材」に限らず「情報モラル育成」や「ICTを活用した授業実践」も研究対象とできるように、夏季研修会の名称を「ICT活用研究会」として、これまで以上に活発に意見交換、実践交流を行っていきます。「情報活用能力の育成」については、各地区の取り組みを、研究集録「三河の視聴覚教育」にまとめたり、「情報交換資料」を作成したりするなどして、具体的な事例を持ち寄り、地区に還元できるようにしています。

本年度も、この二点を活動の中心に据えて研究を進めていきたいと考えています。以下に、本年度の事業内容を紹介させていただきます。

〈本年度の事業内容〉

◇夏季研修会（ICT活用研究会）

○期 日 平成二十六年八月六日（水）

○会 場 ライフポートとよはし

○提案者

①豊橋市立牛川小学校

佐野 了先生

豊橋市立下条小学校

村瀬 裕哉先生

②田原市立泉中学校

内藤 利江先生

③豊田市立井上小学校

大野 慎司先生

④碧南市立新川中学校

齊藤 聡先生

⑤西尾市立横須賀小学校

小塚 博貴先生

⑥高浜市立高浜中学校

山下 聖皓先生

◇委員会議

年に二回開催し、本年度の活動についての確認や、地区の情報交換をします。

◇研究集録「三河の視聴覚教育」の編集

平成二十四年度から二十六年度までの各地区の取り組みをまとめます。

◇愛知県放送教育特別研究会

○期 日 平成二十六年八月二十二日（金）

○会 場 ウィンクあいち

（愛知県産業労働センター）

へき地教育

ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を

切り拓く子どもの育成

―学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の創意工夫―

へき地教育委員会は、四月三十日に第一回委員会を開催し、本年度の研究主題を「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成 ―学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の創意工夫―」として、その活動を充実させていくことが承認されました。なお、今年度は、県へき研第四次研究推進五年計画の第一期一年次となります。へき地教育の振興のために、大きな使命感をもって、活動を推進していくことが確認されました。また、県へき研研究紀要発行に協力していくことで、さらに実りある活動にしていきたいと考えています。

具体的な活動として、

①第五十二回愛知県へき地教育研究大会を開催して、地域の力を生かした特色ある学校づくりを通した確かな学びと豊かな心を育む学校・学級経営のあり方や、子どもの個性や、へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、仲間と共に高め合う学習指導のあり方を追究する。

②県へき研研究紀要「愛知県へき地教育研究シリーズ第三十八集」発行への協

力を通して、具体的な実践事例から学ぶ。以上の二点が提案され、原案通りに決定されました。

〈本年度の活動〉

◇第五十二回愛知県へき地教育研究大会

○期 日 平成二十六年十月二十八日（火）

・全体会場・参観校

・設楽町立津具小学校

・設楽町立津具中学校

◇県へき研会員校研究発表会の開催協力

○期 日 平成二十六年十一月六日（木）

・研究校 新城市立鳳来寺小学校

○期 日 平成二十六年十一月六日（木）

・研究校 新城市立鳳来西小学校

○期 日 平成二十六年十一月十一日（火）

・研究校 豊田市立稲武小学校

・研究校 豊田市立稲武中学校

○期 日 平成二十六年十二月二日（火）

・研究校 豊根村立豊根中学校

◇県へき研研究紀要「愛知県へき地教育研究シリーズ第三十八集」発行協力

○内容

・第八次研究の推進計画

・研究委嘱校の研究推進状況

・新城市立黄柳川小学校

・東栄町立東栄中学校

・会員校の取り組み

・へき地教育振興補助事業

・複式カリキュラムの調査・研究

刈谷支部

身近な歴史に親しむ

―刈谷の歴史をすべての子どもたちに―

刈谷東中学校

刈谷市は昨年、刈谷城築城から四八〇年、天誅組義挙から一五〇年の節目を迎えました。刈谷市教育委員会は、これを契機に、刈谷で学ぶ子どもたちに地域の歴史を知ってほしいと願い、市内中学校の社会科教員を中心に、中学歴史資料作成検討委員会を立ち上げました。委員会では、各中学校の社会科学習の中で取り上げることが可能な刈谷の歴史に大きな足跡を残した人物やできごとを教材化していくことを決めました。刈谷市では、これまで小学校三・四年生向けの社会科の副読本を作成する中で、地域の歴史に残る二人の偉人、フェライトの父加藤与五郎と自動織機の生みの親でトヨタゲ



刈谷市教育委員会制作の「刈谷偉人伝」シリーズ

ループの創始者豊田佐吉について取り上げていました。中学生には、さらに刈谷城を築城した水野忠政の孫の刈谷藩初代藩主水野勝成や天誅組で活躍した松本堂・穴戸弥四郎をはじめとして、童話雑誌「赤い鳥」を支えた森三郎らについて学んでほしいと考えました。

そこで、各中学校でこういった人物の中から一人を取り上げ、六時間程度かけて学習を進めていけるよう、昨年度から、それぞれの人物の資料収集や指導案作成を始めました。指導案の作成にあたっては、刈谷市教育委員会が制作したふるさとの人物紹介をしたDVD「刈谷偉人伝」の活用を念頭に置き、刈谷市史などの歴史資料はもちろんのこと、研究している団体への聞き取りも行いました。また、指導案審議の過程では、市内の社会科教員で作る自主研修会でも協議するなど、時間をかけて作成しました。今年度は、昨年度作成した指導案のうちのひとつ「森三郎」を取り上げ、刈谷市一斉研修会で授業を行いました。また、昨年度に引き続き、指導案や読み物資料の作成も行います。順調にいけば、平成三十一年度には、市内で合わせて三十以上の事例が集まり、一つの冊子となる予定です。（文責・清水 英弥）

支部トピックス



西尾支部

しかし、そこで、くじけるな

先輩尾崎士郎さんの願い

横須賀小学校

本校は、西尾市吉良町の北部に位置し、学区には、忠臣蔵で有名な吉良義央公の墓所華蔵寺や吉良の仁吉の墓所源徳寺などがあり、史跡文化財が豊富な地域です。

本校の歴史も古く、小説「人生劇場」で有名な作家尾崎士郎の母校でもあります。ふるさとを愛した尾崎士郎を、地元の人々は親しみを込めて「士郎さん」と呼んでいます。平成二十五年には、士郎さんの没後五十年を記念して、学芸会で六年生が「人生劇場」の劇を上演しました。

しいという願いを伝えました。

「俵士よ。（略）運命の神様は、ときどき妙な、いたずらをする。しかし、そこでくじけるな。くじけたら最後だ。堂々とゆけ。よしんば、中道にして倒れたところで、いいではないか。（略）」

ず、努力しなさい。たとえ、目標が達成できなくてもよい。遺書からは、こんなメッセージが伝わってきます。

本校では、この遺書から「しかし、そこで、くじけるな。くじけたら最後だ。堂々とゆけ。」を抜き出して石碑にし、校門を入ったところに設置しております。子どもたちは、毎朝登校してくると、まずこの石碑の前で、「しかし、そこで」の言葉を唱和してから教室に入ります。一年間に約二百五十回、卒業までに千五百回繰り返せば、必ず心に刻み込まれ、将来、人生の節目で、この言葉が子どもたちの支えとなってくれると信じています。

六年生は、卒業試験として、この遺書の全文を校長室で暗唱し、先輩尾崎士郎さんの願いを胸に刻んで卒業していきます。こうした取り組みを始めて、すでに三十年以上が経過しています。

（文責・犬塚 順）



学芸会で士郎さんの「人生劇場」を上演

地域とともに

田原市立野田小学校

渥美半島の中央部に位置し、山や海があり、周囲は田園風景が広がる豊かな自然環境に恵まれた本校は、児童数一五四名の小規模ながら、創立一四一年を迎えた歴史ある学校です。校区は農業がさかんで、稲作をはじめ菊やカーネーションなどの施設園芸、牛や豚などの畜産が広く行われています。

平成二十年九月に校舎、運動場を一新しました。木造建築で中央に多目的ホールと時計台を配した造りは、自然の温かさやぬくもりが感じられるように考えられており、「木と土、風と水、陽と光が



「あ！こんなところにもごみがあるよ」

織りなす学校」を基本コンセプトにしています。また、道を挟んで駐在所、野田の中心となる神社、市民館が隣接しています。八月には野田夏祭りが、九月には保小中合同運動会が行われ、多くの住民で賑わうなど、地域のコミュニティの中心として、大きな期待を受けています。保護者や地域の方々の「子どもたちを地域で育てていこう」という思いは強く、学校行事や子ども会活動でも熱心に指導、支援してくださいます。

長く継承されてきた行事として、今年で四十二年目を迎える校区の「ことぎす山登山集会」と、三河湾に面した仁崎海岸での「親子学級」（海岸清掃と潮干狩り）があります。

ふるさと仁崎の海岸は、昔から春は潮干狩り、夏は海水浴場で賑わい、校区民から親しまれてきました。しかし、冬の間に打ち上げられたごみが景観を害することなどがあり、平成十四年から保護者、地域、漁協の方々の協力を得て海岸清掃を行うことになり現在まで継承されています。そして、このふるさとの海を大切にする心、環境保全の活動は評価され、平成二十五年、国土交通省中部地方整備局より表彰を受けることとなりました。

（文責・菊池 弘子）

学 校 自 慢



地域と結びついたキャリア教育 ―選ばれる南中生をめざして―

知立市立知立南中学校

本校は、昭和五十七年、知立中学校から分離独立した市内三番目の中学校です。学区の知立団地に住む外国人の増加に伴い、全校生徒の十一%を超える外国籍生徒がいます。

近年、フリーターやニートの増加など、若者と働くことに関する様々な問題が指摘されています。そこで、

研究主題を「自分のよさを実感し、よりよい自分をめざす生徒の育成」地域と結びついたキャリア教育を通して」と定め、「キャリア教育とは、よりよき社会人や職業人、地域人、家庭人になるために必要な知識・技能・態度を育てる教育である」という理念のもと、

さまざまな実践を積み重ねてきました。ゲストティーチャーを招いたり、地域での体験学習を行ったり、地域行事への参加を促したりしました。「知立市民歩け歩け運動」にも二百人以上の生徒が自主的に参加しました。また、学習や活動の意義や成果を分かりやすく生徒や保護者、地域に伝えました。

例えば、三年総合「赤ちゃんとのふれあい教室」では、母親の話を聞きながら、抱っこやおむつ替えを体験しました。地域の子育て支援センターと連携し、ゲストティーチャーとして五十組余りの親子の協力を得ることができました。

日本語教育が必要な生徒に対して、日本語適応指導教室で、国語と社会を中心に取り出し授業を行っています。多くのボランティアの方にもかわつていただいています。また、外国籍生徒やその保護者を対象とした進路説明会などを地域と連携して行いました。

今後も、自分のよさを実感し、よりよい自分をめざす生徒の育成のために実践を重ねていきたいです。そして、本研究の真の成果は、生徒のこれからの人生のなかで大きく役立つものであることを信じています。

（文責・兵藤 栄一）



初めての赤ちゃん抱っこ体験！

研究校紹介

協同して問題解決に向かい、 学ぶ喜びを感じるとの育成

幸田町立荻谷小学校

本校は、平成二十四年度より、三年間の研究委嘱を西三河地方教育事務協議会より受け、研究主題を「協同して問題解決に向かい、学ぶ喜びを感じるとの育成」、副主題を「つなぎ合い、高め合う『教室コミュニティ』を基盤として」とし、研究に取り組んできました。

私たちが基盤と考える「教室コミュニティ」とは、個々の学びを尊重し合う人間関係のもと、協同の学びの中で個の考えをつないで、集団的に思考を深め、問題解決に迫るような主体的な学びを生み出す学級という場、及び学級集団です。まず学級づくりを大切に、そのうえで子



真剣に話し、聞き、つなぎ合う授業

どもたちの思考に寄り添い、共通の体験や活動を意図的に組み込んだ単元を構想し、授業には子ども同士が多様なスタイルで直にかかわり合う場を設定しました。また、教師の授業洞察力を高めるために、研究授業とその後の協議会を重視しました。速記録をもとにした授業分析会を行うとともに、年間に何回かは逐語記録を起してより丁寧な授業分析を行い、子どもたちの意識のつながりや思考の変容・深化を読み取り、そしてそこから教師の出や発問の有効性を検証してきました。

「子どもたちが調べてきた内容を見ることができた。途中でいくつかの問いが生まれる場面があったが、それぞれ自分が調べてきたことをもとに、解決に向かおうという姿があった。こういう姿が、主発問を中心に展開するのかと、遅まきながらめざすところが明確に見えた気がする。」これは、ある授業分析会後に、本校の一番若手の教員が書いた記録の一部です。十月二十二日（水）に研究発表会を開催いたします。当日の授業をもとに、授業分析会も行います。ご指導いただければ幸いです。（文責・山口 明則）

私の研究

自分の生活を支えてくれる人に感謝し、
自分にできることを考え、実践できる子を目指して

—5年 家庭科「地域のひとのかかわりを考えよう」の実践を通して—

みよし市立緑丘小学校 田村 梓

一 はじめに

子どもたちの生活は、家族や地域など様々な人々に支えられている。子どもたちは、家族に支えられていることは実感しているが、地域の人に支えられているという意識は低い。また、家族に対して感謝の気持ちはあっても、伝えていない現状があった。そこで、自分たちの生活を支えてくれる人に気づき、感謝の気持ちをもって自分たちができることを実行

二 実践

(一) 家庭の仕事を見つめよう

子どもたちは、自分の家庭生活を振り返ることで、いかに自分が家族に支えられているのかを実感した。自分にできそうなことでさえも、やっていなかったことに気づき、お手伝いを進んでほしいという意欲を高めた。

学習が終わった後、もう一度振り返りを行うと、家族のためにお茶をいれたり、赤白帽子のゴムを自分で直したりと、家庭科で学習したことを普段の生活に生かしている子が多くみられた。

(二) 「ありがとうパーティー」を開こう

総合的な学習の時間に行った「米作り」を通して、地域の人や家族などたくさんの人々にお世話になった子どもたちは、感謝の気持ちを伝えるために、自分たちが収穫した米で作ったおもちを食べてもらおうと、「ありがとうパーティー」を開くことにした。子どもたちは、よりおいしいおもちを食べてもらうために、祖母に助言をもらったり、家で練習したりと、大変意欲的に準備をすすめた。

パーティーでは、おもちやお茶のおかわりを進めたり、気持ちのこもったプレゼントを渡したりと、感謝の気持ちを伝えることを意識して活動した。招いた家族や地域の人が笑顔で喜んでくれる姿を見て、子どもたちは満足気であった。

三 おわりに

生活を振り返ることや「ありがとうパーティー」を通して、子どもたちは、生活を支えてくれる家族や地域の人を意識し、感謝の気持ちを伝える喜びを感じることができた。

子どもたちが地域の一人として活動しようという意欲がさらに高まるように、実践を続けていきたい。



家族へ感謝の気持ちを伝える子どもたち

教室の窓から

環境チャレンジ

（海にさわって、海を知る）

蒲郡市立三谷小学校

小島 仁志

本校三階から外を眺めると、遠くには東西に長く渥美半島がのび、その手前に雄大な三河湾が広がっています。中央にこんもりと浮かぶ大島は、毎年公民館フェスティバルで子どもたちが楽しむ憩いの場です。天下の奇祭「三谷祭」では、子どもたちの乗る四つの山車（やま）が、海中渡御で三谷の海に入ります。

海と密接につながっている三谷の町。しかし、最近の三谷っ子は、海で遊ぶ回数が減り、海から離れつつありました。そこで、本校では「海にさわって、海を知る」をテーマに、環境チャレンジに取り組んでいます。蒲郡市生命の海科学館内にある三河湾環境チャレンジ実行委員会と連携し、六月の二日間、四年生が三谷の海に入ります。子どもたちは、岩場の奥に手をつき込んでカニを捕ったり、砂浜をひざぐらいの深さまで掘って、ハマグリを見つけたりします。中でも一番の楽しみはマテガイ採りです。砂浜の穴に塩を入れると、マテガイは波が来たと勘違いして穴の外に出てきます。その様子が見てみたくて、子どもたちはたくさん穴に塩を入れます。なかなか出てこないの、マテガイが現れたときの感動

は大きいです。毎年、参観にみえた保護者の方々も夢中になってマテガイ採りを乐しみます。環境チャレンジは、三谷の海のすばらしさを再発見するとても良い機会です。

さらに今年度は、子どもたちの三河湾に対する自然環境意識を高めるために、アウトドアタレントの鉄崎幹人さんをお招きし、「森が育む三河湾」というテーマの講演会を開催しました。映像を交えながら、森や川と海、そして人の暮らしと自然環境が密接にかかわっていることをわかりやすくお話してくださいました。ユーモラスかつストレートな語り口に子どもたちはすっかり魅了されました。

このような取り組みを通して、三谷の海を愛し、三谷の海を誇りに思う三谷っ子を育てていきたいと思っています。



講演する鉄崎さん



マテガイいないかな？

私のコレクション

天文少年の憧れであり、天文学を飛躍的に進歩させた天体望遠鏡

安城市立安城北中学校 川口 満

小六の冬、姉兄と小遣いを出し合っ

がなく、口径四五センチの反射望遠鏡を筆頭に、幾つもの望遠鏡や双眼鏡が自宅の一角を占めるようになりました。他界した父が残してくれたお金を元手に購入した太陽望遠鏡は、プロミネンスを見たいという中学以来の宿願を叶えてくれました。今では、授業での活用を通して、生徒たちを太陽活動の神秘へと誘ってくれています。

市内の小学校から請われて、天体観

察会を今までに数回行いました。今春、

自宅から運んだ望遠鏡や双眼鏡を用いて、勤務校の生徒・保護者一五〇名程とともに月や惑星を観望しました。子どもたちの歓声を聞き、保護者からは感謝の言葉を送られて、この上ない喜びを感じました。

いつの間にか増えてしまった私の望遠鏡コレクションを今後も活用し、深

格別の興味を抱きました。中一の夏から高校入学の直前まで、太陽黒点の観測に没頭してしまいました。

もともと理科教員を志した動機の一つとして、「勤務時間内に太陽観測が可能なはず」ということがありました。

しかし、日々の仕事に追われる中では天文とは疎遠な月日を過ごさざるを得ませんでした。三十歳の頃、忘れかけていた宇宙への憧れが熱病のように私を襲い、新たな機材を買い揃え始めました。惑星や星雲星団の姿をより明瞭に眺めてみたいとの思いは尽きるこ



自宅屋上ドームと望遠鏡・双眼鏡



安城北中での観察会の様子

教育随想 (75)

政権交代による教育改革の流れは、堰を切ったように激しく、新たな教育施策が義務教育にも次から次へと押し寄せています。一方、今日、多くの学校は様々な教育課題を抱え、保護者対応等では優秀な教員でさえ、バーンアウトの恐れすら感じさせる現実もあります。また、教育に関する基本的なところでも「何かおかしいぞ」と心配になることがちょくちょく起こっています。

多くの人は初めてのよう聞きなれない難解な言葉に出会うと、その意味を調べ、使われ方等にも気を配って理解に努めます。自ら調べ考え、その言葉の世界を想像して自分のものとしていきます。

先日、教員の研修の場で、こんなことに出会いました。

「子どもに寄り添って、子ども

ものの学びの過程を大切にすると、どのように解釈していますかと問われたときのことです。「子どもと共にいて、頑張りを認めほめてやることです。」何となくこれでシヤンシヤンと通り過ぎる雰囲気がありました。そうだよなあ。だけど……?

問われている言葉は、耳触りがよくて「わかったような気にさせる」「雰囲気で理

言葉の一人歩き



蒲郡市教育委員会教育長
廣 中 達 憲

解させる」ことになんら抵抗がないように思われます。このように使い易さ、耳への心地よい響きゆえにその言葉の真実に鈍感になっているとしたなら……。物事の解決、発展の道筋は見えてきません。それどころか誤謬の原因にもなりかねません。教育の現場では独りよがりの子どもの不在の状態を招くこととなります。そこで、考えること、想像することが重要となります。子ども不

在の言葉の解釈を私は「言葉の一人歩き」と呼んで、自分自身に常に警鐘を鳴らし続けています。

この問いに対しては、教師として自身の日々の教育活動にきちんと生かされる解釈をしなければいけないわけです。具体として実践に降りてこなければなりません。この場合「子どもに寄り添う」ことは、

子どもがどのような学習の状況にあるのか、教師の問いかけにどのような反応をしたのかを把握することではないでしょうか。それは授業中に、また、子どもの顔を思い浮かべてするノート点検においても行われるべきことです。子どもの学習状況を整理分析して、授業のあり方と関係づけることです。このように考えてくると「学びの過程を大切にする」のは、

子どもの側に立ちどうすればよいかを想像することになります。認めるだけでは、ほめるだけでは過程を大切にしたことにはなりません。子どもは学びの過程が平坦で順調であることは稀です。したがって子どもの学習状況の整理、確認をして、学習の改善や支援を子どもに行うのは、この言葉に行き着くのだと思います。これに類似したことは案外、多いのではないのでしょうか。次に挙げる言葉もよく耳にするものです。どう解釈しますか?

「指導の軸がぶれず頼りになる」

今、世間は教育改革の嵐で、その中でも子どもたちや学校が不在で霞んでいくようにさえ感じるものもあります。そんな時だからこそ、教職への愛着、誇りを大切に「子どもにとって……」で物事を考え、真剣に足元を見つめることが求められます。これはほんの一例です。

編集後記

アインシュタインの言葉に「教育とは、すべてのことを忘れてしまった後になお残っているもの。その力を直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間形成を目指すこと、それが教育の目的といえよう」があります。

日本の教育にも以前から「自ら考え、主体的に行動する力」の育成をめざし、様々な研究、取り組みがなされてきました。しかし、子どもの力を育成するには、その担い手である教師がその力を有することが重要であります。

さて、今夏も各部会・委員会では、魅力ある研修会を開催します。積極的に参加し、三河各地の子どもたちの成長する姿にふれ合い、多くの教師と知り合い、より優れた教材、より優れた指導方法について語り合い、質の高い「自ら考え、主体的に行動する力」を磨き合ひましょう。ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

◆表紙の写真◆

撮影 「葵の舞」

岡崎市立城南小学校

小林 憲 先生

◆カット◆

愛知教育大学附属特別支援学校

杉浦 直樹 先生